

- (3) 三好達治(「土」)：一九〇〇年～一九六四年
大阪府出身。詩集に「測量船」「南窗集」などがある。

作者・作品の確認問題

次の詩人の名前を漢字で正しく書きなさい。

- ① やまむらぼちよう
 - ② やぎじゆうきち
 - ③ みよしたつじ
-

知識の確認

1 詩の表現技法

あるものを何かにたとえる表現を比喩といい、詩や短歌に多く用いられる。比喩には、「直喩」「隱喩」「擬人法」の三つがある。

参考73・137ページ 知識の確認

直喩	隱喩	擬人法
「(まるで)……ような(だ)」などを 用いてたとえる。	「……ような(だ)」などを 用いないでたとえる。	人間以外のものを、人間に たとえて表現する。
例 綿菓子のような雲だ。 例 まるで鳥のように自由だ。	例 人生は旅だ。 例 君は野に咲く花だ。	例 鳥が歌っている。 例 風がささやいている。

2 詩の形式と分類

「雲」「虫」「土」の三編の詩の形式と分類は、いずれも次の通りである。

用語上の分類：口語詩

参考4ページ 知識の確認

- ・形式上の分類：自由詩
- ・内容上の分類：叙情詩
- * 「雲」「土」は歴史的仮名遣いで書かれているが、使われている言葉は現代の言葉なので、「口語詩」である。

知識の確認問題

- 1 表現技法 次の文から直喩が使われているものを一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 今日空がとても青い。
イ 彼はまるで天使のようだ。
ウ まさか君が来るとは思わなかった。
エ きつと父は早く帰ってきます。

2 詩の分類 「雲」「虫」「土」の三編の詩について、次の各問に答えなさい。

- ① 三編の詩の用語上の分類を漢字三字で書きなさい。
- ② 三編の詩の形式上の分類を漢字三字で書きなさい。

3 表現技法 次の①・②に使われている比喩の種類を後から選び、記号で答えなさい。

- ① おうい雲よ／ゆうゆうと／馬鹿にのんきさうぢやないか
- ② ヨットのやうだ

- ア 直喩 イ 隱喩 ウ 擬人法

必修問題 (1)

得点

100

教科書

p. 24, 26

1 次の詩を読んで、後の問いに答えなさい。

(計50点)

山村暮鳥

おうい雲よ
 ゆうゆうと
 馬鹿ばかにのんきさうぢやないか
 どこまでゆくんだ
 ずつと磐城平いわきひらの方までゆくんか

5

嶋岡晨しまおかと「詩の心—発見の喜び」より

(1) この詩の題名は何ですか。漢字一字で書きなさい。

(5点)

(2) 次の□□に当てはまる漢字を書いて、この詩の用語・形式上の分類を答えなさい。

(5点)

	語
	詩

(3) 作者は何を見て、どう感じたことを詩に書きましたか。「雲」「どこまで」という言葉を使って、「……と感じたこと。」に続くように、二十字以内で書きなさい。

(10点)

と感じたこと。

(4) この詩に描かれている雲は、どんな雲だと考えられますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

(5点)

- ア 飛ぶような速さで風にちぎれてゆく細かい雲。
- イ 空をゆっくりと流れてゆく大きな雲。
- ウ 空全体を覆う、みつしりとした雨雲。
- エ めつたに見えることのできない変わった色や形の雲。

(5) この詩から感じられるものとして適切ではないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

(10点)

- ア 子供のような純真さ。
- イ 技巧ぎこうに富んだ細やかさ。
- ウ ほのぼのとした素朴そぼくさ。
- エ 心ひかれる大らかさ。

(6) この詩はどのような調子で音読すればよいと思われませんか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

(5点)

- ア 改まった恥ずかしそうな調子で。
- イ 軽やかに、少し速い調子で。
- ウ 大きな声で、のびのびとした調子で。
- エ せっかちにたたみかけるような調子で。

(7) この詩の説明として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

(10点)

- ア 雲を旅人に見立てて呼びかけ、のんびりと旅をしたいと感じた思いを表現している。
- イ 雲に親しみを込めた言葉で呼びかけることで、人間も雲も同じ仲間であることを表現している。
- ウ あてどなく空をゆく雲の不安そうな様子を案じ、誰もが感じる思いやりや優しさを表現している。
- エ どこへ行くか分からない雲の姿に人間のおろかさを重ね合わせ、人間の本质を表現している。

